

2019年11月14日



各位

株式会社 F R O N T E O
代表取締役社長 守本正宏
(コード番号：2158 東証マザーズ)
(NASDAQ ティッカーシンボル：FTEO)
問合せ先 取締役 管理本部長 上杉知弘
電話番号 03-5463-6344

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年5月15日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、特別損失を計上する見込みとなりましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 11,600	百万円 200	百万円 116	百万円 10	円 銭 0.26
今回発表予想 (B)	10,500	△750	△840	△1,000	△26.22
増減額(B-A)	△1,100	△950	△956	△1,010	—
増減率 (%)	△10.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	11,262	244	203	52	1.37

修正の理由

当社は、様々なテクノロジーが活用されているリーガルテック業界において、市場環境の変化をいち早く捉え、AI を主体としたビジネスモデルへ転換するため、新たな体制構築に取り組んでいます。しかしながら前回公表した業績見通しの前提よりも、営業マーケティング施策・人材最適化などを通じたビジネスモデルの転換に時間を要し、AI の本格展開が十分に出来ていないことから、2020年3月期通期決算につきましては、リーガルテック AI 事業において売上高が当初の予想を 909 百万円下回る見込みとなりました。また、AI ソリューション事業では、ヘルスケア分野において中期的な見通しに変更はありませんが、当年度は想定していた受託研究案件や創薬企業向けの営業支援および業務支援のソリューション売上が想定以下であったため、売上高の見込みを当初の予想から 191 百万円下方修正いたしました。

損益面につきましては、米国子会社での拠点閉鎖、人員の最適化といった事業改革を行いました。しかし、売上高が見込んでいた水準を大きく下回ること、またビジネスモデルの転換に必要なシニアマネジメント層の採用を推進したことから、営業利益を当初の見通しからリーガルテック AI 事業で 810 百万円、AI ソリューション事業で 140 百万円、下方修正いたしました。親会社株主に帰属する当期純利益は、構造改革費用を特別損失として計上することから、当初予想を下回る見通しとなります。

今後の成長に向けた重点施策として、①AI レビュー製品「**KIBIT Automator**」の活用推進による案件獲得、②営業組織体制を抜本的に見直し、企業営業に特化した組織の新設、③早期の売上貢献を目的としたヘルスケアビジネスの実用化フェーズへの推進、に取り組んでおり売上高拡大に努めてまいります。

(注) 上記業績予想は、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後、為替の変動等様々な要因によって記載内容と異なる可能性があることを予めご承知ください。

2. 特別損失の内容

当社は、連結子会社である FRONTEO USA, Inc. において、AI を主体としたビジネスモデル転換をより加速させるため、拠点閉鎖および人員最適化といった事業改革を実施しました。この結果、当第2四半期連結会計期間に構造改革費用 156 百万円を特別損失として計上いたしました。

以上